現代中国語における「領属関係」の定義とその分類

勝川裕子

0. はじめに

「領属関係」を領属先と領属物との意味関係に拠ってのみ分類する場合、そこには様々な類分けの可能性が存在する。また、どのような関係を「領属関係」と捉えるかも研究者によって様々である。

例えば、例(0－1)は沈阳1998からの引用であるが、名詞(Na)と名詞(Nb)の意味関係に拠ってのみ「領属関係」を定義するのであれば、以下の例における名詞二項連接表現［Na＋(“的”)＋Nb］を全て「領属関係」とみなすことも可能となる。

(0－1)
a. 墙上的画／房间里的摆设／二楼的老王　［范围领属］
b. 图书馆的书／老李的自行车／岳父的存款　［领有领属］
c. 他的父亲／我的学生／经理的秘书　［亲属・称谓领属］
d. 他的眼睛／工厂的围墙／一个人的头脑　［附属领属］
e. 书的封面／自行车的链条／衣服的领子／橘子皮　［整体部分领属］
f. 这堆苹果中的一部分／三个学生中的两个　［数量领属］
g. 萝卜丝／羊肉馅／大米粥／苹果酱　［结果领属］
h. 树叶的颜色／菜的味道／他的性格　［本体属性领属］
i. 运动员的个儿／姑娘的穿着／老王的病　［本体特征领属］
j. 学校的操场上／主楼的大厅里／他的心中　［处所领属］

しかし、沈阳1998も指摘するように、このような分類はその分類基準が明確でないばかりか、何を以って「領属関係」とみなすか――「領属関係」の概念すら曖昧であり、客観性に欠けるものである。

陆俭明1988は、“一定的语法范畴，对句法都会起一定的制约作用。关于这个问题，我们过去还很少注意。”と文法範疇における統語的制約の存在を指摘してい

るが、これは、ある言語事象を分析し分類する際、統語的指標をその基準とすることが可能であることを示唆している。従って、より客観的に言語事象を類分けするには、意味関係だけではなく、意味と形式の両側面からアプローチすることが重要であり、意味的、統語的に相関関係をもった類分けでなければ、分類する意味がないと言っても過言ではない。

次章では、先ず本稿の考察対象である現代中国語における「領属関係」の概念を定義し、次にその「領属関係」を、統語的、意味的特徴に基づき下位分類していく。

1.「領属関係」の定義

名詞二項連接表現［Na＋(“的”)＋Nb］におけるNaとNbの間には様々な意味関係が存在するが、基本的には「属性関係」と「領属関係」の二つの意味範疇に大別することができる。[1]

意味的な観点から見れば、「属性関係」と「領属関係」は比較的明確に区別することが可能であり、この二つの意味範疇は、定語のもつ基本的な文法的意味である「描写」と「限定」とパラレルに存在している。例えば、以下は「属性関係」と「領属関係」の対立としてよく取り上げられる例であるが、これは即ち「描写」と「限定」の対立でもある(例文は朱德熙1982:143より引用。例文番号は筆者による)。

(1－1)　他有很多中国朋友。　［彼には中国人の友人がたくさんいる］
＜属性関係＞

(1－2)　巴基斯坦是中国的朋友。［パキスタンは中国の友人である］
＜領属関係＞

例(1－1)における“中国朋友”の“中国”は、“朋友”が中国人であることを示しており、“朋友”の属性を描写し説明しているのに対し、例(1－2)における“中国的朋友”の“中国的”は、“朋友”が“中国”にとってのものであること――即ち“中国”と“朋友”が「領属関係」にあることに言及し、“朋友”を限定、分類している。

「属性関係」と「領属関係」の対立は、以下の例においても反映されている。[2]

[1] 他にも「存在関係」(“杯子里的酒”)、「包含関係」(“标准体重的25%”)、「同格関係」(“司令员的李小平”)などが存在し、「領属関係」と表現形式を同じくすることが知られている。

	＜属性関係＞		＜領属関係＞
(1－3)	**孩子脾气**　［子供っぽい性格］	⇔	**孩子的脾气**　［子供の気性］
(1－4)	**金鱼眼睛**　［出目］	⇔	**金鱼的眼睛**　［金魚の目］

例(1－3)、(1－4)**からも分かるように、名詞性定語の後に“ 的 ”を伴うか否かによってNaとNbの統語関係は異なり、当然その意味関係も異なる。**[3] **以下の例を比較してみよう。**

(1－5) a. **他是班主任老师**。［彼は担任教師です］＜属性関係＞
　　b. **他是班主任的老师**。［彼は担任の先生の先生です］＜領属関係＞
(1－6) a. **敌人的狐狸尾巴露出来了**。［敵の化けの皮がはがれた］＜属性関係＞
　　b. **狐狸的尾巴很大**。［狐のしっぽは大きい］＜領属関係＞

名詞二項連接表現［Na＋(“ 的 ”)＋Nb］**における「属性関係」とは、Nbの内包する属性が「どのようであるか」をNaが描写し説明する関係概念である。例えば、例**(1－3)**“ 孩子脾气 ”では、“ 脾气 ”**［性格］**が内包する属性は様々であるが、その中から“ 孩子 ”**［子供(のような)］**を取り出し、“ 脾气 ”を描写している。そして、このように“ 的 ”を介さず直接名詞を修飾する場合、名詞句全体で一つの充足した意味を表し、往々にして名詞句が表す文字通りの意味**(NaとNbの意味の和)**以上の意味――隠喩的意味**(metaphorical meaning)**を表すことがある。例**(1－4)**“ 金鱼眼睛 ”**［金魚の目→出目］**や例**(1－6－a)**“ 狐狸尾巴 ”**［狐のしっぽ→化けの皮］**などがその例である。**[4]

一方、名詞二項連接表現［Na＋(“ 的 ”)＋Nb］**における「領属関係」とは、**Na**が領**

[2] 杉村1990aは、修飾語が被修飾語の内容にまで立ち入っているかを基準とし、「属性」を説明する名詞修飾語を「内的」分類基準、「属性」に属さない名詞修飾語(「領属関係」、「存在関係」、「包含関係」、「同格関係」など）を「外的」分類基準としている。

[3] **朱德熙**1982は、領属性定語を伴う偏正構造が文内部に含み込まれる場合、“ **把孩子衣服撕破了**。”のように“ 的 ”を用いなくても成立すると指摘している。定語と中心語がどのような意味関係によって結ばれているかが、“ 的 ”に対する要求度を左右するのであるが、一般に、定語と中心語の意味関係が想起しやすければ容易に“ 的 ”が落ちる傾向にある。一方、“ **你把昨天的事情讲一讲**。”では“ 的 ”を落とすことはできない。これは、“ **昨天** ”と“ **事情** ”の間に存在する意味関係が、上例に比べて「疎」であり、“ 的 ”によって両者を結びつけざるを得ないからだと考えられている。詳細は杉村1990aを参照。

[4] このような例は［名詞＋名詞］に限らず、“ **黑孩子** ”［闇っ子］、“ **黄泉** ”［冥土］のような［性質形容詞＋名詞］においてもみられる。

属の側面からNbを限定し、その外延を縮小させる関係概念である。つまり、例(1－6－b)“狐狸的尾巴”におけるNa“狐狸”はNb“尾巴”が内包する属性ではなく、狸でもない、リスでもない、狐のしっぽであること――即ち“尾巴”の帰属先を限定しているのである。

このような「属性関係」と「領属関係」の意味的特徴は、統語上においても異なる振る舞いを呈している。ここで、領属の最もプロトタイプな文法的意味に基づき、以下に挙げる(1－7)の変換型式を満たすNaとNbの意味関係を「領属関係」とする、と仮に定義してみよう。

(1－7) Na 有(拥有、占有、具有) Nb

これに従えば、例(0－1－b)“图书馆的书／老李的自行车／岳父的存款”はそれぞれ、“图书馆有书。”、“老李有自行车。”、“岳父有存款。”のように(1－7)を満たすため、“图书馆－书”、“老李－自行车”、“岳父－存款”は「領属関係」にあるといえる。ここで注意しなければならないのが例(0－1－d)(0－1－e)(0－1－h)のようなタイプである。例えば、“他的眼睛”に挙げるようなある種のNb は“?他有眼睛。”のように裸のままでは賓語になりにくいものの、“他有圆圆的眼睛。”のように修飾成分を付加すれば問題なく成立する。従って、本稿では以下に挙げる(1－8)の変換型式を満たすNaとNbの意味関係を「領属関係」と定義する。[5]

(1－8) Na 有(拥有、占有、具有)（A）Nb

このように「領属関係」を定義すると、例(0－1－g)で挙げた“萝卜丝／羊肉馅／大米粥／苹果酱”などは、変換型式に当てはめることはできない。

(1－9) * 萝卜有丝。／*羊肉有馅。／*大米有粥。／*苹果有酱。

従って、例(0－1－g)におけるNaとNbの関係は、「領属関係」というよりはむしろ、「属性関係」と捉えたほうが妥当である。“萝卜丝”を“萝卜”による“丝”の属性描写と解釈するのである。

また沈阳1998のように、“今天的报纸／院子的外边”のような「時間・空間関係」や、“墙上的画／房间里的摆设／二楼的老王”のような「存在関係」なども「領

[5] 変換型式【Na 有(拥有、占有、具有)（A）Nb】において、如何なる条件下でAを必要とするかについては、2.1で詳述する。

属関係」に組み込む先行研究も存在するが、本稿ではこのような場所詞、方位詞、時間詞を含む語の意味関係は考察の対象外とし、名詞及び人称代詞からなる二つの語の意味関係のみを考察の対象とする。従って、例(0－1－a)、(0－1－j)は「領属関係」とはみなさない。

次章からは、本章で提示した「領属関係」の定義に合致する二つの名詞(Na、Nb)の関係を、統語的、意味的特徴を根拠に下位分類していく。

2.「領属関係」の下位分類

前章では、現代中国語における「領属関係」を意味と形式の両側面から考察し、以下の条件を満たす関係を「領属関係」とみなすと定義した。

(2－1)　現代中国語における「領属関係」：
　①　名詞、及び人称代詞からなる二つの語(Na、Nb)の関係において：
　②　NaがNbの帰属先、領属先を限定し、類分けする意味関係にあり：
　③　②の意味関係を裏付ける統語的根拠として、以下の変換型式を満たす：
　　【Na 有(拥有、占有、具有)(A)Nb】

従って、以下に挙げる例(2－2)、(2－3)、(2－4)、(2－5)における名詞二項連接表現［Na＋(“的”)＋Nb］は、NaとNbの関係が(2－1)の条件を満たしているため、全て「領属関係」を表す表現であるとみなすことができる。

(2－2)　他的耳朵／她的眼泪/张三的鼻子/小王的眼睛/孩子的手/狼的牙齿/狗熊的爪子/松树的根/柳树的叶子/花生(的)壳/橘子(的)皮/衣服(的)领子/自行车(的)链条/笔记本的封面[6]
(2－3)　他的体重/她的个子/宝玉的性格/李四的长相/人物的形象/他的职业/树叶的颜色/衣服的价格/鞋的尺码/音乐的旋律/作品的风格/故事的情节
(2－4)　我(的)妈妈/你(的)妹妹/他(的)老师/她(的)朋友/王五的哥哥/赵七的爱人/张三的太太/朋友的爷爷/爸爸的同事/姐姐的同学

[6] “花生的壳／橘子的皮／衣服的领子／自行车的链条”などに関しては、“的”を伴わない表現形式(“花生壳／橘子皮／衣服领子／自行车链条”)も存在するが、これも「領属関係」と「属性関係」の対立として捉えることができる。

(2－5)　我的帽子/你的钱包/她的衣服/他们的房子/老刘的手表/小李的书/爸爸的钥匙/弟弟的摩托车/朋友的秘密/老师的爱好/图书馆的书

例(2－2)、(2－3)、(2－4)、(2－5)におけるNaはNbの帰属先、領属先を限定しており、NaとNbが「領属関係」にあることに間違いはない。しかしながら、上記の例において、領属先(Na)と領属物(Nb)の関係を更に綿密に考察すると、その意味関係は一様ではなく、各例ごとに「領属の仕方・され方」が異なっていることが明らかとなる。

そこで本稿では、この「領属の仕方・され方」の相違を明確にするため、「領属関係」を表す関係概念において、以下の観点から下位分類し、考察を進めていく。

(2－6)　「領属関係」の分類基準：

NaとNbの意味関係 ｛ 類① 必然的・恒常的「領属関係」
　　類② 非必然的・遇有的「領属関係」

この基準に拠ると、例(2－2)はNaとNbが「全体－部分」という密接不可分の関係にあり、この意味から類①に、また同様に例(2－3)もNbがNaのもつ性質(属性)の類概念を表しており、Na(本体)とNb(本体属性の類概念)の関係は密接不可分であることから類①に下位分類される。また、例(2－4)はNaとNbがお互いの存在なくしては存在し得ないという依存的・他律的な関係にあり、類①に類分けされる。一方、例(2－5)は、NaとNbの関係が非必然的――即ち遇有的な意味関係にあることから類②に類分けされる。以上、NaとNbの意味関係を必然的な「領属関係」であるか否かを基準とし、下位分類すると、図(2－7)のようにまとめることができる。

(2－7)　「領属関係」を表すNaとNbの意味関係：

「領属関係」 ｛ 類①　必然的・恒常的「領属関係」 ｛ ・「全体－部分関係」
　　・「本体－属性関係」
　　・「相互依存関係」
　　類②　非必然的・遇有的「領属関係」―― ・「一般領有関係」

次節からは、この基準の設定と「領属関係」の下位分類の妥当性について、統語的、意味的特徴を根拠にそれぞれ検証していく。

2．1 全体－部分関係

先ず、領属先(Na)と領属物(Nb)の意味関係が「全体－部分」の関係にある場合を考察していく。「全体－部分」関係において、領属先(Na)が有情物(主に人間や動物)である場合、その領属物(Nb)には「身体部位」を表す部分名詞が挙げられる。人間や動物とその身体部位が先天的に不可分な関係であることは言うまでもない。例えば、人間に「頭」があるという状態は必然的なことであり、「頭がある」状態と「頭がない」状態は二項対立をなさない。「身体部位」が人間や動物にア・プリオリに所有されていることは、以下に挙げる例文が不自然なことからも窺い知れる。陳述が情報価値を有するのは二者択一の状況になる時のみ[7] であり、ア・プリオリに所有しているものに対して、その所有をわざわざ言及することはなんら情報価値を有さないからである。

（2－8）**?他有双耳朵。／?张三有个鼻子。／?小王有双眼睛。**[8]

これらの例において、特に「領属関係」に言及するには、その先天的に所有されているもの(ここでは「身体部位」)が「どのようであるか」について述べなくてはならない。これが(1－8)で提示した変換型式【Na 有(拥有、占有、具有)(A) Nb】において、Nbが定語(A)の修飾を必要とする理由である。従って、以下のような例は問題なく成立する。

（2－9）　**他有双大耳朵。／张三有个蒜头鼻子。／小王有双圆圆的眼睛。**

このような部分名詞の特異性は、世界の多くの言語においても普遍的な現象であり、不可譲渡名詞(inalienable noun)として扱われることが多い。Ivič1962 **は被限定語が不可譲渡名詞である場合、その限定語は省略不可能であることを指摘しているが、これは現代中国語において、部分名詞が領属性の述語となるとき、必ず修飾成分を必要とすることと極めて類似する言語事象である。以下の例は、**Ivič1962 **からの引用である。**

（2－10）　a.　The girl with dark glasses.

---

[7] R.ヤーコブソン著、田村すゞ子他訳 1973:3

[8] 日本語では「彼には眼がある」「彼は身長がある」といった場合、その部分名詞の意味するところが延伸され情報価値を担い得ることを中川1976は指摘している。

b. The girl with glasses.

（2－11） a. The girl with dark eyes.

b. *The girl with eyes.

例(2－10)**における** “glasses” **は可譲渡名詞**(alienable noun)**であり、その限定語** “dark” **を省略しても文として成立可能であるのに対し、例**(2－11)**における** “eyes” **は不可譲渡名詞であり、このとき限定語** “dark” **は省略不可能である。**

「全体－部分」関係が不可譲渡所有として扱われ、他の「領属関係」とは性質を異にすることは、以下に挙げる名詞述語文において、名詞性偏正構造が述語になるとき、中心語が表す事物が必ず主語が表す人或いは事物の分離不可能な一部でなければならない[9] **ことからも窺い知れる。次の例を見てみよう。**(**例文は朱德熙**1982**から引用、一部改変。例文番号は筆者による。**)

（2－12） **这个人黄头发。［この人は金髪だ］**

（2－13） **这孩子大眼睛。［この子は大きな目だ］**

（2－14） **这间屋子洋灰地。［この部屋はセメントの床だ］**

例(2－12)、(2－13)、(2－14)**における述語“黄头发”、“大眼睛”、“洋灰地”はそれぞれ主語が表す人或いは事物の一部分を表しており、且つ主語の属性を描写している。一方、例**(2－15)、(2－16)、(2－17)**における“黄裤子”、“大书包”、“新沙发”はそれぞれ主語が表す人或いは事物の領属物にはなり得ても、一部分にはなり得ず、また主語の属性を描写することもないため、非文となるのである。**[10]

（2－15） * **这个人黄裤子。 [この人は黄色いズボンだ]**

（2－16） * **这孩子大书包。 [この子は大きなカバンだ]**

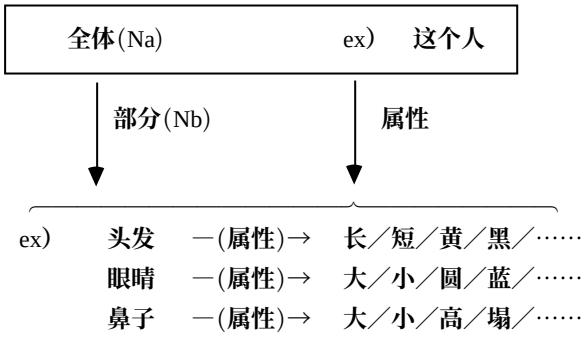
（2－17） * **这间屋子新沙发。[この部屋は新しいソファーだ]**

以上、領属先(Na)**と領属物**(Nb)**の意味関係が「全体－部分」の関係にある場合について形式を根拠に考察したが、部分名詞**(**ここではNb**)**を含む文を構成する各要素の関係を図示すると以下のようになる。**

[9] 詳細は**朱德熙**1982 : 103を参照。

[10] しかし、“**这个人黄裤子，那个人蓝裤子。**”のように対比項を提示すると比較的成立しやすくなる。対比項を提示することにより、Nbが領属先にとって単なる遇有的な領属物ではなく、より本質的な属性へと転化するためであると思われる。

（2－18）



2．2 本体－属性関係

次に、領属物（Nb）が領属先（Na）のもつ性質（属性）の類概念を表す場合について考察していく。領属先（Na）と領属物（Nb）の具体的な意味関係は例（2－3）に挙げた通りである。

先ず、属性の類概念とはどのようなものを指すのか、具体的な例を挙げながら考察していく。

（2－19） **这件衬衫** a.（**很贵／很便宜**）。
b.（**比较宽松／比较紧**）。
c.（**是尼龙的／是麻纱的**）。

（2－20） **我男朋友** a.（**很好看／很丑**）。
b.（**很保守／很开放**）。
c.（**叫李四／叫张三**）。

例（2－19）における述語 a.“ 很贵／很便宜 ”、b.“ 比较宽松／比较紧 ”、c.“ 是尼龙的／是麻纱的 ” は全て主語 “ 这件衬衫 ” の属性（本体が具備している性質）を描写しているが、その属性描写の基準となる類概念はそれぞれ異なる。つまり、例（2－19－a）“ 这件衬衫｛很贵／很便宜｝。” における “ 很贵／很便宜 ” は、主語 “ 这件衬衫 ” の「価格面」における属性描写であり、例（2－19－b）“ 这件衬衫｛比较宽松／比较紧｝。” における “ 比较宽松／比较紧 ” は、主語 “ 这件衬衫 ” の「サイズ面」における属性描写である。同様に、例（2－19－c）“ 这件衬衫｛是尼龙的／是麻纱

的}。”における“是尼龙的／是麻纱的”は、言うまでもなく主語“这件衬衫”の「材料(生地)面」における属性描写である。本稿では、例(2－19)における主語“这件衬衫”――即ち領属先(Na)に対して、上で挙げた「価格」、「サイズ」、「材料(生地)」などを属性の類概念――即ち領属物(Nb)と捉えるのであるが、このとき領属物(Nb)は領属先(Na)によって自動的にその存在が含意されており、この点でNaとNbは必然的・恒常的「領属関係」にあると言うことができる。つまり、「本体－属性関係」において、領属物(Nb)の存在はその領属先(Na)に先天的に含意されているのである。これは以下に挙げる例において、偏正構造を構成する主語［Na＋的＋Nb］から中心語――即ちNbを省略しても文が成立することからも明らかである。

(2－21)　这双鞋的尺码太大了。　⇒　这双鞋太大了。
(2－22)　那首歌的旋律很优美。　⇒　那首歌很优美。
(2－23)　这个作品的风格很独特。⇒　这个作品很独特。

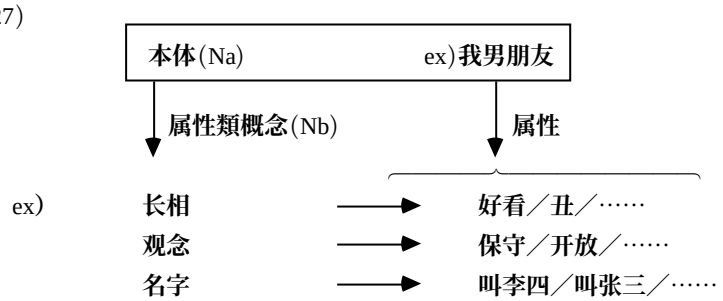
一方、「本体－属性関係」同様、領属先(Na)と領属物(Nb)が必然的・恒常的関係にある「全体－部分関係」では、以下の例に挙げるように、領属物(Nb)を省略することはできない。

(2－24)　她(的)眼泪流下来了。　⇒　*她流下来了。
(2－25)　小王(的)眼睛很大。　⇒　*小王很大。
(2－26)　自行车(的)链条断了。　⇒　*自行车断了。

例(2－21)、(2－22)、(2－23)では、領属物(Nb)は領属先(Na)の属性の類概念であり、その存在は先天的に含意されているので、領属物(Nb)を省略しても文が成立するのに対し、例(2－24)、(2－25)、(2－26)では、部分名詞――即ち領属物(Nb)について専ら言及しているため、省略することができないのである。

以上、例(2－20)を例に、属性の類概念を含む文を構成する各要素の関係を図示すると以下のようになる。

(2－27)



杉村1999b**も指摘するように、「名前」は人間の社会的な属性であり、この他にも「血液型」なども生物学的な属性であるとみなすことができる。また、学生であれば「専攻」が、社会人であれば「職業」などが属性の類概念として、領属先**(Na)**に含意されるであろう。**[11]

2．3 相互依存関係

次に、「領属関係」を構成する二つの語――即ち領属先(Na)**と領属物**(Nb)**との間に「相互依存関係」が認められる場合について考察していく。**

ここで言う「相互依存関係」とは、互いが互いの存在無くしてはありえない二つの事物の間に成り立つ関係であり、自らの存在が他者との関係によってのみ規定され得るような関係を指す。[12] 従ってこのような意味的特徴から、「相互依存関係」は「全体－部分関係」(2.1**参照**)**、「本体－属性関係」**(2.2**参照**)**同様、必然的・恒常的**

[11] 杉村1999bは本体属性の類概念を以下のように定義している。

「人」が代表する概念を x、その x によって含意される諸概念を y とすると、y は x によって自動的に与えられる情報であり、x の登場と同時に話しの場に存在している。つまり y は情報として既知のものである。

また、“ A－**是／叫**－QB?⇔AはBのQですか? ” の形式をとる文において、B は常に A に含意される諸概念を表すことを指摘している。

・ **他**是什么**病**?　・ **他们**是什么**关系**?　・ **我已经忘了他**是什么**样子了**。

下線で示した“ **他** ”と“ **病** ”、“ **他们** ”と“ **关系** ”、“ **他** ”と“ **样子** ”は、本稿で言うところの「本体－属性関係」を構成している。

[12] 「領属関係」におけるこのような「自らの存在が他者との関係によってのみ規定され得るような関係」を**张敏**1998は“ **双向领属关系** ”と称し、“ **我妈妈** ”のようなPN構造の成立条件の一つに挙げている。

「領属関係」であると言うことができる。

「領属関係」において、領属先(Na)とその領属物(Nb)とがお互いに依存し合うような関係体系を構成するものの典型に「親族関係」が挙げられる。例えば、［父母］ということばが表す意味概念には、その前提として［子］の存在が含意されており、また同時に［子］ということばが表す意味概念は、［父母］の存在が前提とされている。つまり、［子］が存在して初めて［父母］は存在し得、同時に［父母］が存在して初めて［子］は存在し得るように、［父母］と［子］は相互に規定し合う関係体系を構成しているのである。「相互依存関係」におけるこのような意味的特徴は、“父母”、“儿子”の領属先を規定しない例(2－28)、(2－29)が不自然となることからも窺い知れる。

(2－28)　?他们是父母。　⇒　他们是张三的父母。
(2－29)　?王五是儿子。　⇒　王五是我(的)儿子。

また、このような「相互依存関係」は「親族関係」に限られたことではない。例えば、“老师”と“学生”、“师傅”と“徒弟”、“朋友”と“朋友”なども、互いに規定し合う関係にあることは明らかである。例えば、例(2－30)は張三の李四に対する「領属関係」を述べたものであるが、これは同時に例(2－31)に示すように李四の張三に対する「領属関係」を意味する。

(2－30)　李四是张三的{老师／师傅／朋友}。
(2－31)　张三是李四的{学生／徒弟／朋友}。

このように見てくると、例(2－4)に挙げるような「領属関係」は全て、その領属先(Na)と領属物(Nb)とがお互いに依存し、規定し合う関係体系を構成している。例えば、“我(的)妈妈”という場合、“我”は自動的に“妈妈”の子であることが確定され、同様に、“王五的哥哥”という場合、“王五”は自動的に“哥哥”の弟であることが確定される。一方、“张三的鼻子”(「全体－部分関係」)や“李四的长相”(「本体－属性関係」)のような「領属関係」は領属先(者)の側からしか関係を規定することができず、従ってここに「相互依存関係」を他の必然的・恒常的「領属関係」と区別する必要性が生じてくるのである。

「相互依存関係」におけるこのような意味的特徴は、自らと自らを規定する他者とを結びつける上で積極的に機能し、“我妈妈”のように先行名詞が構造助詞

“的”を伴うことなく後続名詞を修飾する表現の成立を支えていると考えられている。

2．4 一般領有関係

これまで考察してきた「領属関係」の下位タイプ――即ち「全体－部分関係」、「本体－属性関係」、「相互依存関係」はそれぞれの統語的、意味的特異性により、他の「領属関係」とは明確に区別されるが、領属先(Na)と領属物(Nb)との関係が必然的、恒常的である点においては共通する意味的特徴を有している。従って、(2－7)ではこれら三つの「領属関係」の上位概念に、必然的・恒常的「領属関係」(類①)を設定した。

一方これとは対照に、領属先(Na)とその領属物(Nb)との関係が非必然的であり、臨時的に形成された「領属関係」が、例(2－5)に挙げる「一般領有関係」である。

“他的鼻子”(「全体－部分関係」)や“音乐的旋律”(「本体－属性関係」)、“王五的哥哥”(「相互依存関係」)などにおける領属物(Nb)が、本来的にその領属先(Na)に備わっているのに対し、“我的帽子”や“老李的手表”など「一般領有関係」における領属物(Nb)は、領属先(Na)――即ち領有者が積極的に何らかの働きかけをした結果、領有した遇有的な領有物であり、領有者と領属物の間には如何なる必然性を見出すこともできない。「一般領有関係」におけるこのような意味的特徴は、変換型式【Na 有(拥有、占有、具有)Nb】において“不一定”を挿入しても成立することからも窺い知れる。

(2－32)　她不一定有衣服。　　【領属先“她”――領属物“衣服”】
(2－33)　弟弟不一定有摩托车。　【領属先“弟弟”――領属物“摩托车”】

これに対し、必然的・恒常的「領属関係」は、変換型式【Na 有(拥有、占有、具有)Nb】に“不一定”を挿入すると、非文になる。そればかりか、【Na 有(拥有、占有、具有)Nb】だけでは情報価値を得られず、Nbの前に必ず定語による修飾成分を必要とする。これはNaがNbの存在を前提としているためであり、そのNbについてわざわざ言及するには、Nbが「どのようであるか」を描写しなくてはならないからである。

(2－34)　*小王不一定有眼睛。
　　?小王有眼睛。　　⇒　小王有圆圆的眼睛。

(2－35)　*那首曲子不一定有旋律。
　　?那首曲子有旋律。　⇒　那首曲子有很优美的旋律。
(2－36)　*这位老师不一定有学生。
　　?这位老师有学生。　⇒　这位老师有很优秀的学生。

このような統語的、意味的特徴から、「一般領有関係」は、その領属先と領属物との間に必然性が認められず、従って上述の必然的・恒常的「領属関係」の対極にある非必然的・遇有的「領属関係」(類②)に類分けされるのである。

3．まとめ

本稿では、意味と形式の両側面から現代中国語における「領属関係」の概念を定義し、下位分類を進めてきた。先ず本稿では、変換型式【Na 有(拥有、占有、具有)(A)Nb】を満たす Na と Nb の関係を「領属関係」と定義し、次にNaとNbの意味関係が必然的であるか否かを基準に、「領属関係」を①必然的・恒常的「領属関係」と②非必然的・遇有的「領属関係」の二つに大別した。そして更に必然的・恒常的「領属関係」においては、統語的、意味的特徴に基づき、「全体－部分関係」、「本体－属性関係」、「相互依存関係」の三つに類分けした。

本稿で類分けした「領属関係」の下位タイプ――「全体－部分関係」、「本体－属性関係」、「相互依存関係」、「一般領有関係」は、これまで“被”構文、“得”補語文、“把”構文、名詞述語文、主述述語文などの構文において例外的に扱われてきた言語事象を包括的に説明するのに有効である。また、これら下位タイプは、それぞれ点的に存在するのではなく、領属先(者)の領属物に対する「領属意識」の度合いに基づき、これを連続的・階層的に捉える必要がある。現代中国語における「領属関係」が、言語表現上どのように反映され、表層化されているかについての個別的な分析は別稿に譲ることとする。

【引用文献】

Ivič Milka 1962 *The grammatical category of non-omissible determiner,* Lingua XI

陆俭明1988 **〈现代汉语中数量词的作用〉,《中国语文丛书 语法研究和探索》(4), 商务印书馆**

中川正之1976 **「日中両国語における譲渡不可能名詞について」,『中国語学』** 223 **号**

R.**ヤーコブソン著 田村すゞ子等訳**1973**『一般言語学』, みすず書房**

沈阳1998 **〈领属范畴及领属性名词短语的句法作用〉,《句法结构中的语义研究》, 北京语言文化大学出版社**

杉村博文1990a **「中国語と日本語の名詞連接表現比較」,『大阪外国語大学論文集』第４号, 大阪外国語大学**

杉村博文1999b **「あなたはだれ?名前は?」,『中国語』６月号, 内山書店**

张敏1998 **《认知语言学与汉语名词短语》, 中国社会科学出版社**

朱德熙1982 **《语法讲义》, 商务印书馆**